

Let's try ACP

実践
ルポ

楽しいがいっぱい!

子どもたちに体を動かすことの楽しさを伝え、運動・スポーツに対する積極性を引き出すアクティブ・チャイルド・プログラム（以下、ACP）。日ごろの指導においてACPを実践することで、子どもたちの動きは生き生きしてくるはず。子どもたちを楽しく遊ばせるためのヒントを集めてみた！



静岡県磐田市にある「こうのとり保育園」では、今夏からACPの導入を本格的に始めた。同園の保育教諭たちが、幼児期からのACP普及ワーキンググループ班長の富田寿人氏を講師に迎えた研修会に参加したのがきっかけだ。研修会には、市内にある同じ系列の3つの保育園、子ども園の保育教諭たちは、「幼児期からのACP」ガイドブックを片手に、

保育教諭が意識を変えて取り組むACP



こうのとり保育園の園庭では毎日、子どもたちの元気な歓声が響いている

た。ただ、昔に比べて、子どもたちの体からしなやかさが失われてきています。思わずところでケガをするのはそのためです。子どもたちに自分の体を知つてもらうために、多少の小さな小さなケガはかまいません。夢中になつて遊ぶなかで、多様な動きを経験させたいと考えています」（永島園長）

ACPを導入した。子どもたちが参加。幼児期における運動の意義や、多様な動きを引き出す運動遊びについて、富田氏がわかりやすく指導した。研修会には、こうのとり保育園の永島弘美園長も参加した。現在は、各園の実態に応じてそれぞれがACPを実践しているそうだ。

「こうのとり保育園では、毎朝の体操とジョギングは十年以上も続けてきました。ただ、昔に比べて、子どもたちの体からしなやかさが失われてきています。思わずところでケガをするのはそのためです。子どもたちに自分の体を知つてもらうために、多少の小さな小さなケガはかまいません。夢中になつて遊ぶなかで、多様な動きを経験させたいと考えています」（永島園長）

ACPを導入した。子どもたちが参加。幼児期における運動の意義や、多様な動きを引き出す運動遊びについて、富田氏がわかりやすく指導した。研修会には、こうのとり保育園の永島弘美園長も参加した。現在は、各園の実態に応じてそれぞれがACPを実践しているそうだ。

「富田先生の研修会を受けてから、単に体力を高めるためだけの運動という考え方ではなく、運動が園の日常生活そのものであり、それが保育の基盤になるようにしていきたいと考えています。まだやり始めて1ヵ月がたつたばかりですが……」

「保育教諭の意識が変わること

が変わる」と吉田繁敬

敬先生はアドバイスする。

<p



ACPへの意気込みを語る永島弘美園長

は2人とも富田氏の研修会への参加をきっかけに子どもたちとの関わり方を意識するようになったようだ。

「子どもたちの運動能力の低下は以前から聞いていました。ただ、（研修会で）実際にグラフで示されると、あらためて危機感を覚えます。実技では、自分たちも子どもたちでルールを変えてみれば、おもしろくなさそうであれば、例えばその場で遊びをやってみると、子どもの実態に応じた働きかけを心がけることが大切です」

壁に当たったときは よりシンプルに

こうのとり保育園は男性保育士が多いのも特徴の一つだという。現在は5人の男性が勤めている。

「『男性保育士が輝く保育』の場をもつとつくりたいと考えています」（園長）

取材で訪れた日、園庭では朝早くから子どもたちの歓声が上がっていた。駆け回る子どもたちの輪の中に、笑顔で接する男性保育士の姿があった。子どもたちと一緒に体操で飛び跳ね、ジョギングで声をかけ、ボール遊びで盛り上げる。この朝、指導を担当していた袴田暁仁さん、上野裕之さん

「ACP研修会を受けて、遊びの仕掛けを室内だけではなく、戸外でも考えるようになった」という保育教諭の新村彩華さん



手形、足形に自分の手足を重ねて遊ぶ園児



こうのとり保育園恒例の朝のジョギング

「私は最初、子どもたちの運動能力を伸ばすことに執着しすぎたと思います。運動遊びのサーキットをつくって、夕方の外遊びの前に実施してみました。運動遊びの一環だったのですが、しばらくしたら子どもたちから“もう遊んでもいい？”と言われて（笑）。子どもたちにとっては遊びではなく、やらなくてはいけないことに気づいていました。子どもたちが自発的に遊びたくなる環境を提供

組んだそうだ。

「遊びたくなる仕掛けをつくることが本当に大切だと思いました。研修会に出て、私たちの意識が変わってきたからか、子どもたちが積極的に体を動かすようになつたと感じています」（上野さん）



ウッドデッキに貼られたケンケンバー用のシール



竹を割って作った橋。遊具にはさまざまな工夫が見られる



保育教諭の皆さんからの質問に丁寧に答える吉田繁敬先生



保育教諭歴12年の上野裕之さん

してくれた。

「ACPの導入を本格的に始める

と、3ヶ月くらいで、壁に当たります。常に新しい遊びを提供しなくてはいけないと思うからです。これで

は、自分が苦しくなってしまいます。

こういうときのキーワードは、よりシンプルに』です。

シンプルな遊びだと、子どももわかりやすいので、自分で工夫することもできます。動きが複雑になつたり、道具が必要になつてしまします。家庭

「こうのとり保育園のことしのテーマは『快く動く』ということ

で、ACPの実践とつまぐりリンクさせていきたいと思っています。た

だ、体力測定がメインではなく、

子どもが楽しく遊んで、もっとや

りたいと言つてくれるのがいちばん

子どもが楽しく遊んで、もっとや

りたいと言つてくれるのがいちばん

子どもが楽しく遊んで、もっとや

りたいと言つてくれるのがいちばん

子どもが楽しく遊んで、もっとや

りたいと言つてくれるのがいちばん

子どもが楽しく遊んで、もっとや

りたいと言つてくれるのがいちばん

子どもが楽しく遊んで、もっとや

りたいと言つてくれるのがいちばん

子どもが楽しく遊んで、もっとや

りたいと言つてくれるのがいちばん子どもが楽しく遊んで、もっとや

地元とつながりの深いこうのとり保育園には園児の笑顔がいっぱい

することが重要だと気づきました」(袴田さん)

「ウッドデッキに『ケンパー』のマークを描いたり、室内に手形、足形マークを描いたりと、遊べる仕掛けを作つてみました。これまで室内での遊びが多かつたのですが、子どもたちが屋外に出る機会が増えてきていると思います。

保育士2人の試行錯誤はこれからも続くだろう。話を聞いた吉田先生は、こんなアドバイスを

ことし8月、富田氏が指導する静岡理工科大学の研究チームがこうのとり保育園を訪れ、園

児たちの体力測定を行つたそだ。そして、3ヶ月後の11月に再度、体力測定を実施する予定を組んでいる。ACPの実践により、子どもたちの体力にどのような影響が見られるかを検討するこ

とが目的で、この間は原則的に体力測定用の練習は行わない取り組みで山車を引く子どもたちの力測定用の練習は行わない取り組みを決めだ。

「こうのとり保育園のことしのテーマは『快く動く』ということ

で、ACPの実践とつまぐりリンクさせていきたいと思っています。ただ、体力測定がメインではなく、子どもが楽しく遊んで、もっとや

